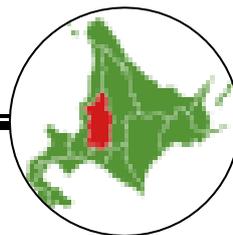


第6章 地域における主な環境保全の取組

＝【空 知】



1 「エコそらち」の構築に向けた環境配慮行動の普及啓発

空知総合振興局では、環境と調和した自然にやさしい「エコそらち」の構築を目指し、北海道らしい環境に配慮したライフスタイルの実践を図るため、「そらちエコラウンジ」事業を実施しています。

平成30年度（2018年度）は、環境行動に関するパネル展を実施したほか、いわみざわ環境フェスタ、三笠市で開催された第40回消費生活展に出展し、オリジナルエコバッグ作りなどに取り組み、環境行動の普及啓発を行いました。

今後も「そらちエコラウンジ」事業を継続し、空知管内の市町がエコの輪でつながっていくよう効果的な取組を進めていきます。

■環境月間パネル展



■いわみざわ環境フェスタ



（マイバッグ作り体験）

2 夕張岳の高山植物保護

富良野芦別道立自然公園の南端近くに位置する標高1,668mの夕張岳は、ユウバリソウ、ユウバリコザクラ、シソバキスミレなどの希少な固有種をはじめ、北海道の山岳でみられる高山植物のほぼ全てがみられ、国の天然記念物にも指定される花の名山として知られています。

空知総合振興局では、こうした高山植物の不法盗掘や絶滅が懸念される希少種の保護対策として、地元で以前から保護活動を続けているユウバリコザクラの会を始め関係機関・団体と協力し、登山者にパンフレットの配布等の高山植物の盗掘防止キャンペーンを実施するとともに、道警とも連携し、ヘリコプターを使った航空監視など、盗掘防止のための多角的な監視活動を行っています。

■吹き通しのユウバリソウ生育域



■シソバキスミレ



■ユウバリソウ



3 岩見沢市による胆振東部地震における災害廃棄物の受け入れ

平成30年(2018年)9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」は、胆振地方を中心に道内に大きな被害をもたらしました。

被災地では、地震の影響で発生した災害廃棄物を早期に処理することが求められていました。

岩見沢市では、被災地の復旧・復興の支援の一環として、むかわ町穂別地区及び日高町旧門別地区で発生した災害廃棄物を9月27日から10月17日までの間の5日間に、約26トン受け入れ、「いわみざわ環境クリーンプラザ」で焼却処分しました。

■災害廃棄物の受け入れの様子

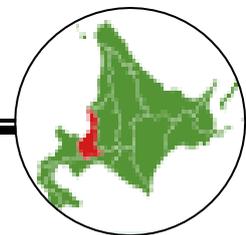


■災害廃棄物の積み込みの様子



(写真の提供：岩見沢市)

= 【石 狩】



1 いしかり環境ミライ展 in 恵庭

道では、北海道洞爺湖サミットを契機に、「北海道地球温暖化防止対策条例」に定められた「北海道クールアース・デイ」(毎年7月7日)の関連イベントを、毎年開催しています。石狩振興局では、平成30年(2018年)の取組として、6月23、24日に道と川の駅「花ロードえにわ」において、自転車による発電や手づくりうちわの作成などの体験を通じて、限りある資源を有効活

用することの重要性や、環境への負荷が少ない水素社会の形成について、道民の関心と理解を深めることを目的とした「いしかり環境ミライ展 in 恵庭」を開催しました。

■自転車による発電体験



■手づくりうちわの作成



2 3R推進キャンペーン&北海道クリーン作戦「ポイ捨てゼロの日」街頭啓発

石狩振興局では、平成30年(2018年)10月2日、札幌駅・地下街アピアにおいて、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進を図ること及び空き缶、ペットボトル、たばこの吸い殻の散乱防止を目指し、道民の環境意識の高揚とモラルの向上を図るため関係団体と合同で啓発活動を行いました。「やめようたばこ、空き缶等のポイ捨て」ののぼりをたて、3R啓発ティッシュ、メモ帳などを配布するとともにポイ捨てゼロへのご協力について声かけを行いました。

■環境忍者えこ之助 参上!



■3Rを推進する くるりん



3 地域環境学習「自然観察会 ～秋の野鳥観察会～」

身近な自然に接する機会を提供し、環境に配慮した地域作りを目指す「地域環境学習」として、10月6日に石狩市との共催で秋の野鳥観察会を実施しました。

会場は、多様な水鳥や猛禽類が見られることで知られる「いしかり調整池」。

北海道野鳥愛護会の樋口会長を講師にお迎えし、いしかり調整池では、ツルシギなどのシギ類をはじめとして10種類の野鳥を観察することができました。帰路、石狩川河口にも立ち寄り、北海道で見かけることは希なヘラサギを観察することができました。

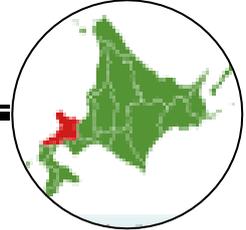
4 石狩地域エゾシカ対策事業「野幌シカセミナー」

札幌市や江別市の石狩中部地域においては、エゾシカの生息数が横ばいから増加継続にあると見られています。

札幌・江別・北広島の3市にまたがり所在する野幌森林公園における、エゾシカの生息動向や植生への影響の把握を行い対策方法の検討を行う「石狩地域エゾシカ対策事業」の一環として、野幌森林公園の自然ふれあい交流館において「野幌シカセミナー」を開催しました。

9月から12月にかけて「世界におけるシカ」、「シカと日本人の歴史的な関わり」、「野幌森林公園とエゾシカ」、「エゾシカと森林植生」といった異なるテーマで計4回開催し、100名以上の参加がありました。

＝【後 志】



1 環境学習「3Rでアール」

後志総合振興局では平成30年（2018年）6月29日（金）から30日（土）、公益財団法人北海道産業廃棄物協会後志支部、倶知安町、コアレックス道栄株式会社とともに、3R（リデュース・リユース・リサイクル）をテーマとした環境学習「3Rでアール」を開催しました。

期間中120名の来場者があり、見学会やフリーマーケット、参加団体によるパネル展示、リサイクル工作などのリサイクル展の実施、3R啓発、段ボール堆肥化等のパネル展示やエコバッグ等の普及啓発物品の配布などにより3Rへの理解を深めていただくことができました。

2 環境学習「水生昆虫観察会～ニセコの川を見よう」

平成30年（2018年）8月8日（水）FFニセコ川を見る会及びニセコ町企画環境課とともに、環境学習「水生昆虫観察会～ニセコの川を見よう」を実施しました。ニセコ町の小学生らを対象に、ニセコ町内を流れるルベシベ川での水生昆虫、魚の観察を通して、川への親しみや魅力を感じていただくとともに、ルベシベ川の水質の状態を確認することで、身近にある水環境の保全に対する理解を深めていただきました。

後志総合振興局では、引き続き、清流日本一の尻別川を含む、管内河川の環境保全のための取組みを推進していきます。

■3Rでアール



■水生昆虫観察



3 自然公園施設の維持管理

管内には国立公園・国定公園・道立自然公園を1箇所ずつ擁しており、利用者の安全確保及び快適な利用を促進するため、これまでに園地、歩道、野営場などの利用施設を整備しています。施設の多くは整備から20年近く経過し、経年劣化による破損や傷みが進行していますが、少ない予算

の中で十分なメンテナンスが行き届いていない現状にあります。このため軽微な修繕、建物の外壁塗装、倒木処理などについては、後志総合振興局職員が直接補修作業や管理作業を行い、利用者の安全確保と施設の延命に努めています。

■ 車道上の風倒木処理



支笏洞爺国立公園 半月湖倶知安口線車道

■ 展望台防護柵の補修



二セコ積丹小樽海岸国定公園 五色温泉園地

4 動物愛護に関する普及啓発

後志総合振興局では、9月20日から26日の動物愛護週間にあわせて、動物愛護に関するイベントを毎年開催しています。平成30年度（2018年度）は、10月6日（土）に小樽市との共催で「保護動物の譲渡会」及び「動物愛護啓発パネル展」を開催しました。北海道胆振東部地震の影響により、当初の予定を変更しての開催でしたが、会場となった小樽市保健所には開催直後から80名あまりの市民が訪れました。

また、会場では、小樽獣医師会や動物愛護団体、動物愛護推進員のご協力の下、ペットの健康相談や動物愛護に関する説明なども行われました。

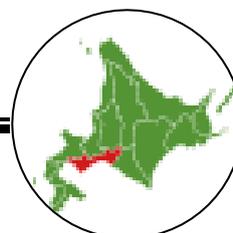
■ 保護猫の譲渡会



■ 動物愛護啓発パネル展



＝【胆 振】



1 地球温暖化防止に向けた取組

胆振総合振興局では、平成20年（2008年）7月に開催された「北海道洞爺湖サミット」を契機とした地球温暖化防止に向けた気運の高まりを今後も継続的なものとするため、様々な取組を行っています。

(1) いぶりガイアナイト 2018

平成 30 年（2018 年）7 月 12 日、むろらん広域センタービル 1 階ロビーにおいて、「いぶりガイアナイト 2018」を開催しました。開催に先立ち、これまでのガイアナイトを振り返る写真や、製作したキャンドルホルダーを会場ギャラリーで展示しました。

また、当日は、わくわくおはなし会やハンドベルミニコンサートも開催し、来場された地域の方々と地球環境のためにできることを考える時間を過ごしました。

そのほか、関係機関と連携し庁舎ビルや室蘭のシンボルである測量山、白鳥大橋のライトダウンも併せて行いました。

■キャンドルホルダーづくり



■ハンドベルミニコンサート



■会場ギャラリー



(2) NPO 法人等の取組

胆振管内では、身近な自然の復元を目的にビオトープ（生物群の生息場所）づくりを進めている「NPO 法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭」や室蘭イタンキ浜の鳴り砂を後世に残すために浜の清掃活動や学校で子ども達に鳴り砂の大切さを教える活動している「室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会」など、NPO 法人や各種団体等による様々な環境保全活動が行われています。

胆振総合振興局では、これらの NPO 法人が実施する取組に対して積極的に参加しています。

(3) いぶりウォームビズ・フードマイレージ

平成 30 年（2018 年）11 月 24 日にスーパーアークス室蘭中央店 3 階において「いぶりウォームビズ」、平成 31 年（2019 年）2 月 21 日から 22 日までむろらん広域センタービル 1 階ロビーにおいて「いぶりフードマイレージ」を開催しました。

「いぶりウォームビズ」では、12 月の地球温暖化防止月間に併せて省エネ 3S キャンペーンやウォームビズの取組などについて考えるもらうため、自らが実践できる取組を「私の環境宣言」と題して参加者に宣言していただいたほか、啓発品の配布を行いました。「いぶりフードマイレージ」では、食からの CO2 排出削減の取組、さらには食育や地産地消にもつながる「フードマイレージ」に関するパネル展示を行いました。

■いぶりウォームビズ



■いぶりフードマイレージ



2 野生鳥獣対策

胆振管内を含む北海道西部地域のエゾシカ生息数は、平成23年度（2011年度）をピークに増加から減少に転じましたが、鈍化した平成25年度（2013年度）からは東部地域よりも多くなっており、未だ、農林業被害や交通事故など様々な問題を引き起こしています。

このようなエゾシカによる被害を防止するため、胆振総合振興局では、胆振地域エゾシカ・ヒグマ対策連絡協議会を開催するなど、関係機関との連携により、エゾシカを始めとした有害鳥獣の捕獲体制の強化等を推進しています。特にエゾシカについては、一般的な駆除では捕獲が困難な地域において振興局自ら捕獲事業に取り組んでおり、平成30年度（2018年度）には、苫小牧市苫東地区において、モバイルカリング及びくくり罠による捕獲を実施しました。

エゾシカの有効活用については、平成29年（2017年）、登別市内に設立されたエゾシカ肉処理施設認証制度に基づいた処理施設が製造したシカ肉の缶詰を、登別ブランド推進協議会が「登別ブランド推奨品」として認定するなど、地域独自で有効活用に取り組む動きもみられています。

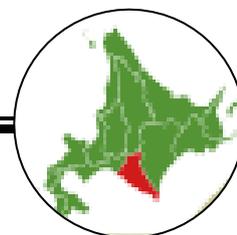
■エゾシカ肉処理施設認証制度に基づく検査



■シカ肉缶詰



＝ 【日 高】



1 地球温暖化防止・3Rに関する取組

日高振興局では、7月7日の北海道クールアース・デイと連携し、住民の皆さんに地球温暖化防止の意識を高めていただくことを目的に、平成23年度（2011年度）からガイアナイトイベントを開催しています。

平成30年度（2018年度）は、7月6日から7月13日までの間、「ひだかガイアナイト」として地球温暖化防止・エコライフスタイルに関するパネル展示を日高振興局エントランスホールにて実施し、キャンドル等の配布を日高振興局エントランスホール、浦河町役場ロビー及び浦河町総合文化会館ロビーにて実施しました。

また、10月の3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進月間にあわせ、10月18日に浦河町総合文化会館で開催されたうらかわ消費生活展にて、3R推進・エコライフスタイルに関するパネル展示や啓発物品の配布を実施しました。

■ひだかガイアナイト(パネル展示、キャンドル等配布)



■うらかわ消費生活展(パネル展示、啓発物品配布)



2 エゾシカ対策

日高管内では、エゾシカの農林業被害が増大しており、地域の課題となっています。

農林業被害の8割近くは牧草ですが、牧場付近での銃器によるエゾシカの捕獲は、軽種馬や牛の誤射や、銃声に驚いて暴走させケガを負わせたりする危険性があるため、日高振興局では、くくりわなによる捕獲を促進しています。

わな免許取得初心者等を対象に、捕獲技術を伝える「狩猟免許出前教室」を管内2カ所で開催し、35名の方に参加いただきました。

■狩猟免許出前教室



3 ゼニガタアザラシ学習観察会

近年、襟裳岬周辺を中心に準絶滅危惧種であるゼニガタアザラシの生息数が増加しており、サケの定置網漁やタコ漁などに深刻な漁業被害をもたらしています。

人間とゼニガタアザラシの共存を考えるため、平成31年(2019年)3月17日に、えりも町の「襟裳岬・風の館」において「親子で考えよう!ゼニガタアザラシ学習観察会」を開催しました。管内から親子連れなど約70名の方に参加いただき、ゼニガタアザラシを観察するとともに、その生態や漁業との共存などについて理解を深めました。

■スライドを用いて生態を説明



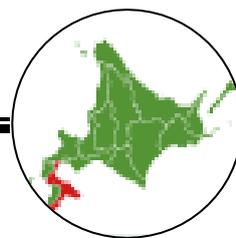
■望遠鏡でアザラシを観察



■アザラシの皮に触れる参加者



＝【渡 島】



1 大沼環境事業「大沼の自然を見る！聞く！！食べる！！～大沼の「食」から大沼の「自然環境」を学ぼう！～」

平成 28 年（2016 年）3 月に開業した北海道新幹線「新函館北斗駅」からも近い大沼公園地区は、美しい景観と多様な生態系で知られ、平成 24 年（2012 年）4 月には、大沼をはじめとした湖沼群周辺が道南では初のラムサール条約湿地に登録されました。

しかしその一方で、富栄養化による水質の悪化が見られ、特に夏場などに発生するアオコは生態系への影響や観光地としてのイメージを損なうものとなっており、湖沼環境の保全が求められています。

大沼の環境を保全していくためには、これまでの大沼のことをあまり知る機会が無かった多くの住民の方々に関心を持ってもらうことも大切です。渡島総合振興局では、七飯町、大沼ラムサール協議会、七飯大沼国際観光コンベンション協会、自然公園財団大沼支部ほか多くの皆様に協力をいただき、平成 31 年（2019 年）2 月 10 日、函館市内大型書店にて「大沼の自然を見る！聞く！！食べる！！～大沼の「食」から大沼の「自然環境」を学ぼう！～」と題し、トークセッション、キーワードラリー及び、大沼の食品の試食などを実施し、多くの皆さんに大沼の豊かさを知っていただけました。

■大沼環境事業の様子



2 猫多頭飼育に関する講話

平成 30 年（2018 年）6 月 26 日に、森町ボランティア連絡協議会の主催するボランティア研修会において、猫の適正飼養及び多頭飼育に関する講話を行いました。

研修会に参加した 100 名程の森町ボランティア連絡協議会会員の方々に対し、多頭飼育の危険性と崩壊を防ぐための対応の重要性を伝えました。講話が終わった後に犬や猫の飼養方法について相談に来る会員もあり、猫の適正飼養等に関する理解を深めていただくことができました。

■研修会の様子



3 動物愛護週間イベント

9月の動物愛護週間中である平成30年(2018年)9月23日に、地域の方に動物愛護と適正飼養について関心と理解を深める目的で、獣医師会、動物愛護推進員、その他ボランティアの方々に御協力いただき、どうぶつ愛護フェスティバルを開催しました。

獣医師によるペットの健康相談や獣医師体験の他、セラピー犬とのふれあいや盲導犬との歩行体験などを行い動物愛護などに関する理解を得ることができました。

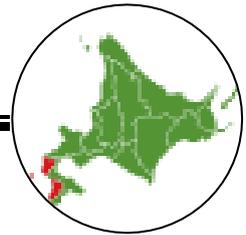
■盲導犬との歩行体験



■獣医師体験



＝【檜 山】



1 野生鳥獣対策～鳥獣被害対策セミナーの開催～

檜山管内では鳥獣による農業被害が増える中、ハンターの高齢化による減少で対策のペースが遅くなっていることに加え、全道的に生息域を拡大しているアライグマ(特定外来生物)の脅威もすぐそこまで迫ってきています。

そのため、「自分の畑は自分で守る」必要性が高まっていることを知ってもらうべく、平成31年(2019年)1月16日厚沢部町民交流センターにおいて、日頃鳥獣被害に逢われている農業関係者に対する、鳥獣被害対策セミナーを開催し農業従事者自らが行うことの出来る鳥獣防除策や、狩猟免許取得(わな免許)による自己防衛について紹介しました。

厚沢部町、新函館農協厚沢部支店、北海道猟友会江差支部、檜山振興局等の関係機関がはじめて連携し開催した当セミナーには、当日は約30名の農業関係者等が集まり、直後に開催された狩猟免許試験では、受講者5名が狩猟免許を取得しました。

今後も、管内各町での開催を検討しているほか、狩猟免許取得後の技術やモラル向上に向けた取

■セミナーの様子



組を検討し、地域の鳥獣被害防止の土台を固める活動を行っていきます。

2 ひやまの環境教育

北部桧山衛生センター組合では、構成町内の小学校高学年児童を対象に隔年でごみ処理に関する標語やポスターを募集し、環境衛生教育を実施しています。

ごみ分別の推進・資源の再利用に関すること、ごみの不法投棄防止・環境の保全に関すること及び各行楽地からのごみの持ち帰り等に関することを標語又はポスターのテーマとして募集したところ、22回目となる今年度は137名の児童から126作品の標語、11作品のポスターの応募がありました。

「資源ごみ地球にやさしい分別を」などの入賞した作品は、公共施設などで展示されるとともに町広報誌などでも町民に周知され、作品を通じて地域住民の環境意識の高揚及び啓発にも一役買っています。

■ポスター展示の様



■標語展示



また、檜山振興局では、管内小学生を対象に、身の回りの不用品を利用した「ひやまりサイクル工作コンクール」や森林探索などの「自然環境教室」を実施し、環境について考え自然豊かな環境を守り育てていくことのできる心を醸成していきます。

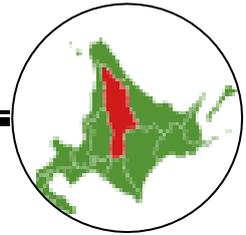
■リサイクル工作コンクール



■自然環境教室



＝【上 川】＝



1 エコ&セーフティドライブの取組

道は、環境負荷の少ない運転をすることで二酸化炭素排出量の削減と交通安全を一体的に推進するため、「エコ&セーフティドライブ」の普及を進めています。

上川総合振興局では、平成30年（2018年）8月18日に（一社）旭川地区トラック協会が主催した「トラックふれあいフェスティバル」において、幅広い世代の皆さんに環境負荷の少ない自動車の仕組みや運転技術への理解を深めてもらうため、模型を用いた水素自動車の原理の紹介やエコ&セーフティドライブに関するパネルの展示を行いました。

また、「環境忍者えこ之助」が子供たちと積極的に交流しながら、レジ袋の利用削減に向けて、マイ・エコバッグ作りを体験してもらい、楽しみながら3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進の取組について理解を深めていただきました。

■環境忍者えこ之助と来場者



2 キャンドルナイト in 旭川

平成30年（2018年）6月16日及び12月15日に旭川市市民活動交流センターCoCoDeにおいて「キャンドルナイト in 旭川」が開催され、地域の皆さんが地球環境について考えながら、スローな時間を楽しみました。

上川総合振興局では、参加者のみなさんに地球に優しいエネルギーの利用や、3R利用推進の取組について理解していただくために、ミツバチの巣を原料としたミツロウを使ったキャンドル作り、マイ・エコバッグ作りや地球環境についてのクイズラリーの体験コーナーを出展しました。特にミツロウキャンドルは、通常のろうそくに比べ、石油を原料としないことから油煙が少ないことや最後まできれいに燃えることが特徴となっている、人にも環境にもやさしいキャンドルです。参加者の9割を超える方からは、エコな取組を「少しずつやるちゃんとやる」という声や、「環境について学べる体験型の取組をやってほしい」という意見等もいただきました。

■ミツロウのキャンドル作り



3 地域環境普及学習事業「デイキャンプ in 朱鞠内」

朱鞠内道立自然公園の魅力のPRやエゾシカ肉の試食を通じて、地域の自然環境を深く理解してもらうため、平成30年（2018年）10月13日、地域の自然環境に精通している講師をお迎えし、親子の一般参加者など総勢20名による「デイキャンプ in 朱鞠内」を開催しました。

参加者に対し、朱鞠内湖の自然についての解説や、魅力についての説明を行うとともに、人工物に住み着いたコウモリの観察や、エゾシカについての解説・試食を行い、朱鞠内道立自然公園のPRや地域の自然環境への理解を深めました。

今後も、こうした地域の自然環境、環境教育に関する啓発活動を行っていきます。

■デイキャンプ in 朱鞠内の様子



4 登山道保全技術セミナー～たまには山へ恩返し～

大雪山国立公園は、雄大な山岳景観を楽しみながら夏の間、エゾコザクラ、チングルマ、キバナシャクナゲ、エゾノツガザクラなどの高山植物や、ホシガラスやギンザンマシコ等の野鳥をより間近に観察できる場所です。また、秋にはナナカマドやチングルマ等の鮮やかな紅葉を楽しめるため、国内はもとより海外からも多くの登山者が訪れる人気の場所となっていますが一方で、利用者の増加や集中豪雨等の自然現象により登山道の浸食や崩壊が進んでいます。

上川総合振興局では、登山道での事故の可能性を減らすとともに、大雪山の優れた自然環境の保全を図り、貴重で豊かな自然を次世代に引き継ぐことを目的として、平成30年（2018年）8月18日と9月1日に地元の山岳関係団体と共催で、「登山道保全技術セミナー～たまには山へ恩返し～」を開催しました。

当日は一般参加者のほか、山岳会等の関係者や行政機関の職員など計2回総勢124名により、丸太や現地石等を活用した登山道の段差解消の作業や木道補修などを行いました。

このような官民協働による補修作業は、一般参加者と山岳関係者などが一緒に作業することにより、参加者全体の環境保全意識の向上に繋がりを、また、山岳事故の未然防止にも寄与できるものと考えています。

今後もこうした官民協働によるセミナーを継続して行うことにより、山岳環境保全意識の向上に努めていきます。

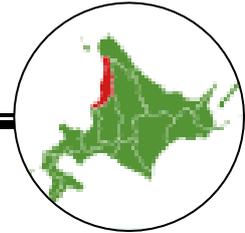
■補修資材運搬の様子



■参加者のみなさん



＝ 【留 萌】



1 増毛山道再生の取組

日本海に面し断崖絶壁が続く雄冬海岸（雄冬岬）を貫く国道 231 号（増毛国道）は、昭和 56 年（1981 年）に全線開通しましたが、かつては茂津多岬、神威岬とともに西蝦夷地三険岬と呼ばれた交通の難所でした。この海岸線を迂回すべく、安政 4 年（1857 年）に江戸幕府の命を受けた増毛漁場請負人の商人 伊達林右衛門によって開削された道路が「増毛山道」です。

この山道は、その後の交通機関の発達等により、次第に利用者が減少し、昭和 16 年（1941 年）の武好駅逓^{※1}（ぶよしえきてい）の廃止以後は利用する人もほとんどなくなり、いつしかネマガリダケ（チシマザサ）の藪に埋もれていました。しかし、平成 21 年（2009 年）から留萌振興局と NPO 法人増毛山道の会が協働でその再生事業に着手、その後、地元自治体や石狩振興局など関係機関の協力を得ながら、8 年の歳月をかけ平成 28 年（2016 年）10 月、石狩市浜益区幌から増毛町別対までの全線 27km^{※2}の復元が完了しました。

毎年開催している増毛山道の会による山道体験トレッキングでは、暑寒別天売焼尻国定公園内の豊かな自然や増毛山地の山並、日本海の眺望のほか、武好駅逓跡、当時の電信柱、橋の石積み跡、仏様の台座、遠く三河産花崗岩で造られた水準点標石等、北海道開拓を物語る多くの歴史的遺構を見ることができます。

平成 30 年度（2018 年度）は、北海道命名 150 年に当たることから、記念事業として、8 月 18 日に増毛町文化センターにおいて北海道山道シンポジウムを開催したほか、武好駅逓の解説看板や増毛山道を開削した伊達林右衛門の記念標柱を設置し、増毛中学校の学習トレッキングや 9 月の体験トレッキングに併せて除幕セレモニーを実施しました。

（注）※1 駅逓（所）とは明治期に作られた北海道独自の制度で、宿泊・人馬継立・郵便等の業務を担った施設。

※2 増毛町岩尾までの分岐道を加えると全長約 32km。

■北海道 150 年記念北海道山道シンポジウム

■増毛中学校学習トレッキング・駅逓看板除幕式



2 3Rなどの普及啓発（フリーマーケット等の開催）

留萌振興局では、3R（リデュース、リユース、リサイクル）や地球温暖化防止の啓発事業として、フリーマーケット（留萌リサイクル運動の会と共催）をはじめ様々なイベントなどを開催しました。

(1) 6月（環境月間）開催イベント

環境月間である6月は、地域住民の皆様に環境保全への関心を高めていただくことを目的として、平成30年（2018年）6月24日（日）に留萌合同庁舎の講堂を開放し、24店舗が出店するフリーマーケットと、庁舎内での3Rパネル展を併せて実施しました。あいにくの雨模様ではありますが、来場者は出店者も含め約260人で、熱心に各店舗を回り、品定めする姿が見られました。

【フリーマーケット（6月）】



(2) 10月（3R推進月間）開催イベント

3R推進月間である10月は、地域住民の皆様に3Rへの理解と協力を目的として、留萌合同庁舎の一階道民ホールにおいて、3R環境パネル展を開催しました。期間は10月1日（月）から10月5日（金）までで、同時に北海道リサイクル認定品の無料配布も実施しました。

【パネル展（10月）】



(3) 12月（地球温暖化防止月間）開催イベント

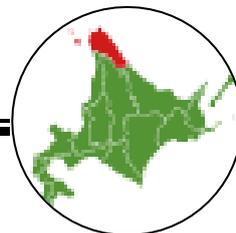
地球温暖化防止月間である12月は、地域住民の皆様に地球温暖化に関する理解と関心を深めていただくことをテーマとして、平成30年（2018年）12月15日（土）に留萌合同庁舎の講堂を会場に、「エッグキャンドルづくり」を実施しました。会場では多くの子供たちがたまごの殻に着色されたロウを流し込むエッグキャンドルづくりを楽しみました。

【エッグキャンドルづくり（12月）】



本事業は、留萌振興局の独自事業である「よりみちの駅クリスマス」の一事業として実施しており、来場者は他の事業も含め、約540人でした。

＝【宗 谷】＝



1 高山植物盗掘防止の取組

礼文島は、標高が低い場所でもレブンアツモリソウなどの希少な高山植物を身近に観察できることから、植物の開花シーズンになると毎年多くの観光客が訪れます。

宗谷総合振興局では、希少な高山植物を守るため、関係機関と連携しながら、毎年6月と7月の2ヶ月間、「高山植物盗掘防止キャンペーン」を実施し、礼文島を訪れる観光客に対し、リーフレットの配布などを行うほか、振興局をはじめとする関係機関の職員や道の生物多様性保護監視員による盗掘監視パトロールを実施しています。

礼文町では、生物多様性基本法に基づき、礼文町生物多様性地域戦略「礼文島いきものつな

がりプロジェクト」を策定し、礼文島にある多様なつながりの保護と保全、恵みの継続的な活用に向けた取組みを進めています。その一つとして、礼文島でみることができる植物をモチーフにした記念バッジを販売し、「礼文島リボンプロジェクト」として、その益金を礼文島の自然のために有効に活用しています。

■レブンアツモリソウ



■レブンウスユキソウ



■レブンコザクラ



2 宗谷クリーンアップ運動

北海道洞爺湖サミット開催（平成 20 年（2008 年）7 月）を通じて高まった道民の環境保全意識の持続を目的とした全道的な普及啓発活動の一環として、宗谷総合振興局では、平成 21 年度（2009 年度）から「宗谷クリーンアップ運動」を展開しています。

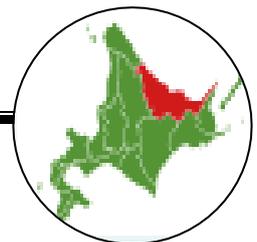
取組としては管内各地の清掃活動への参加、6月の環境月間におけるパネル展の実施、また「宗谷クリーンアップサポーター宣言」の参加団体を募っています。

清掃活動については、平成 30 年度（2018 年度）は8箇所に参加しました。また、サポーター団体数は令和元年（2019 年）5月現在で 59 団体となっています。

■幌延町における清掃活動の様子



＝【オホーツク】



1 クールオホーツク

オホーツク地域では、エリアカラーの「オホーツクブルー」（近い色を含む）を家庭や職場に取り入れた涼感の演出や、省エネ活動によるエコライフへの転換など、地球温暖化防止活動を地域活性化につなげる「クールオホーツク」の取組を展開しています。

平成 30 年度（2018 年度）は、7月1日から8月31日までの2ヶ月間を実施期間とし、期間中の毎週水曜日を「クールオホーツクの日」としてオホーツクブルーを地域のブランド色として確立させ、エコでクールなライフスタイルへの転換を推進しました。

また、クールオホーツクの趣旨に賛同する企業・団体にポスターやのぼり旗を掲示していただくなどクールオホーツクの取組に積極的に参加いただきました。

オホーツク総合振興局では、実施期間に先立って、この取組を幅広く PR するため、クールオホーツク・キックオフイベントを開催し、環境工作の体験などを行い、約 100 名の方々にご参加いただきました。

実施期間中は、職員有志がクールオホーツク啓発用ポロシャツ（通称：オホ・シャツ）を作成し、北見市、紋別市、(社)網走市観光協会の協力も得て積極的に着用したほか、振興局内にクールオホーツクコーナーを設置、地域の名産であるハッカ油を用いたアロマディフューザーによる清涼感の演出を行いました。

■オホ・シャツを着用した
クールオホーツクの啓発活動



2 オホーツク動物愛護週間イベント

9月の動物愛護週間行事の一環として、獣医師会、動物愛護推進員、ボランティアとともに動物愛護週間イベントを開催しました。

「猫といっしょにハッピーライフ（第3弾）」と題したイベントでは、猫と人が一緒に暮らすということや動物の病気のことについて考える講演会のほか、動物愛護についてのポスター展示や犬猫の写真展などにより、ペットの愛護、適正飼育やマナーについてPRを行いました。

講演会には150名もの方々にご来場いただき、講演会の講師が会場からの質問にお答えするコーナーでは、飼い主さんが不思議に思っている猫の行動や、野良猫に関する質問があり、動物愛護や適正飼育に対する理解を深めるイベントになりました。

■講演会の様子



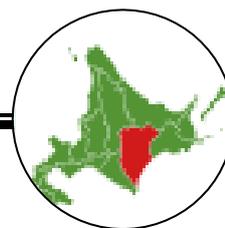
■動物愛護ポスター・写真展



■質問コーナーの様子



＝【十 勝】＝



1 「もっとエコなとかちづくり」～とかち地域資源活用・価値創造事業～

十勝総合振興局では、平成20年度（2008年度）から「もっとエコなとかちづくり」を合言葉に低炭素型ライフスタイルの定着・促進を目指した取組を行っています。

(1) 普及啓発活動推進

帯広市等主催の「とかち・市民『環境交流会』2018」では、地域で社会貢献活動を実施している環境コンサルタント会社の方を講師に、子ども向け環境体験教室「電気がなくても使える！エコライトを作ろう」を実施したほか、「エコドライバーズ宣言」の呼びかけや「不法投棄やめさせ隊」の募集など、地域で取り組む環境保全行動について啓発活動を行いました。

また、十勝総合振興局及び北海道建築士会十勝支部主催の「きた住まいるフェア」において、環境体験教室「ソーラーカーを作ろう」を実施したほか、参加者がゲームを通じて環境にやさしい生活行動を考えました。

■環境交流会



■ソーラーカーを作ろう



■バイオガス取組マップ



(2) 「十勝バイオガス取り組みマップ」の作成

バイオガスの導入に関する気運醸成を図るためバイオガスプラントのしくみや、道内でも先進的な十勝の取り組みを紹介するパンフレット「十勝バイオガス取り組みマップ～十勝から循環型環境農業に向けて～」を作成しました。

2 地球温暖化防止対策イベント「ガイアナイト」の実施

「北海道クールアース・デイ」の取組の一環として、地域の商店街及び帯広市の協力のもと「おびひろ広小路ピアガーデン」において「ガイアナイトinおびひろ2018」を開催しました。

普段は賑やかなピアガーデンの照明を消灯し、来場者は幻想的なろうソクの灯りの下で、テーブルマジックを楽しみながら、地球環境についてそれぞれ想いをめぐらせました。

■ガイアナイト



3 環境保全意識を持つ人づくり（地域環境学習普及事業）

■国立環境研究所セミナー



国立環境研究所及び（公団）北海道環境財団との共催で、国立環境研究所地球環境セミナー「変貌する十勝の気候と地球温暖化」を開催しました。

国立環境研究所及び気象庁札幌管区気象台の3人の研究者の講話と、参加者との対話を行い、私たちができるこれからの温暖化対策について地域の皆さんと考えました。

4 動物愛護週間行事のイベント

(1) 動物愛護フェスティバル

帯広市の総合施設のイベントである「プラザまつり」との合同開催で、動物愛護フェスティバルを行いました。十勝獣医師会による獣医師体験、動物愛護団体によるチャリティバザーや飼い主募集中犬猫のプロフィール紹介、一般社団法人アニマルウェルフェア畜産協会によるアニマルウェルフェアの解説など多彩な催しを行い、2日間で約2100人の来場者がありました。

■獣医師体験



■チャリティバザー



■アニマルウェルフェア解説



(2) パネル展

9月20日から9月26日までの動物愛護週間の期間中、十勝総合振興局1階道民ホールで、パネル展を行いました。「ペットも守ろう！災害対策」と題し、災害に備えて飼い主が日頃から行うべき対策をパネルで具体的に紹介しました。

■展示の様子



5 エゾシカ有効活用PRイベント

(1) 「TREE FESTIVAL」

近年、エゾシカが増加しており、餌の確保ができなくなったエゾシカが、森林に生息している草木を食べつくすことで植性が悪化してしまうことが問題となっています。

十勝総合振興局では、銀河の里TreeFestivalほんべつ実行委員会が主催する十勝の木に触れて遊んで学べるイベント「TREE FESTIVAL」において、地域住民にエゾシカについて知ってもらうためにエゾシカ問題を紹介するパネル展示、シカの角を使った輪投げコーナー、シカの皮とかぶり物を使っての「エゾシカなりきりコーナー」を出展し、皆様に理解を深めていただきました。

■会場の様子



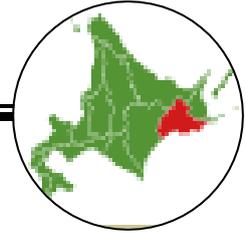
(2) 「食べる・たいせつフェスティバル」

コープさっぽろ主催の「食べる・たいせつフェスティバル」（帯広会場）に参加し、エゾシカ肉の栄養成分をPRしました。また、「食べる＝命の大切さ」を子供達にも理解してもらうため「ハンターなりきり」や「シカ角輪投げ」など分かりやすく楽しめるコーナーを設け、啓発を行いました。

■会場の様子



= 【釧路】



1 ウチダザリガニ防除の取組

特定外来生物ウチダザリガニの防除は、今では道内各地で盛んに行われていますが、釧路市春採湖では平成20年度（2008年度）から続いており、釧路市は防除のパイオニア的存在となっています。平成30年度（2018年度）までに累計で3万個体を超えるウチダザリガニを捕獲してきました。

一時は激しく水草が減少し、国の天然記念物に指定されているヒブナの産卵等への影響が危惧されていましたが、現在は回復傾向にあることが確認されています。また、ウチダザリガニを捕獲する際に、在来種のモクスガニが入る数も増加しており、これまで実施してきたウチダザリガニ防除の効果の一つである可能性も考えられます。

釧路市は令和元年度（2019年度）も引き続き、春採湖のウチダザリガニ捕獲事業を実施することとしています。



2 2018 動物愛護フェスティバル in くしろ

動物愛護週間にちなみ、平成30年（2018年）10月8日に釧路市内で開催したイベントのテーマは「知っていますか？動物愛護管理法」でした。

災害時における同行避難に関する準備、しつけに関するパネル展示、ペット防災グッズの展示のほか、動物愛護団体による譲渡予約会、ペットの無料相談などを実施し、延べ280人の方々に関心を寄せていただきました。



3 タンチョウ越冬分布調査

環境省の委託を受け北海道が実施しているタンチョウ越冬分布調査は、タンチョウの保護増殖を図る上での重要なデータになるだけでなく、子供たちの環境教育にも役立っています。

平成 30 年（2018 年）12 月の調査では、地元の小学生 62 名（10 校）中学生 91 名（7 校）合わせて 153 名の参加を得て、釧路管内で 756 羽のタンチョウの生息を確認しました。



4 地球温暖化防止対策の普及・啓発

平成 30 年（2018 年）は「北海道 150 年みらい事業」として、7 月 9 日（月）に釧路市役所横の「にぎわい広場」に釧路市内の夜間保育園の児童に来ていただき、環境読本の朗読会（読み聞かせ）や大学生の管弦楽演奏からなる「くしろガイアナイト 2018」を開催したほか、併せて「くしろカルチャーウィーク」として、7 月 7 日（土）・8 日（日）に釧路市内のこども遊学館でプラネタリウムの上映（宇宙の中の地球）やサイエンスショー（二酸化炭素って悪者？）を行い、7 月 22 日（日）には釧路市立図書館の「夏休み自由研究屋台村」において地球環境ブースを設けて地球環境の図書の展示を行いました。

さらには、釧路市内の飲食店にポスターを配布しライトダウンを呼びかけるキャンペーンを展開しました。

■くしろガイアナイト 2018



■環境読本朗読会



5 くしろエコ・フェアにおける環境啓発の実施

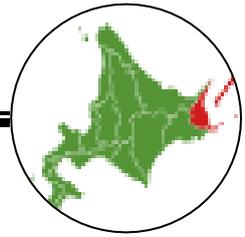
「くしろエコ・フェア」は、環境に関心のある団体・個人が「くらしと環境」について考える場を共有したいとの思いから、平成 19 年（2007 年）に発足して以来、毎年環境月間である 6 月に開催し、環境に関する様々な取組を行うイベントです。

平成 30 年（2018 年）は 6 月 30 日（土）にイオンモール釧路昭和で開催されました。釧路総合振興局も地球温暖化防止を周知するため「エコ&セーフティドライブ」のパネル展の実施や、廃棄物の減量化促進のため「小型家電リサイクル法」の周知パンフレット、「リサイクル製品」紹介の冊子等の配付を行いました。

■くしろエコ・フェア会場の様子



＝【根 室】



1 世界自然遺産・知床の日

知床がユネスコの世界自然遺産に登録されたのは、平成 17 年（2005 年）7 月 17 日。それから 10 年、改めて知床の価値を見つめ直し、私たち北海道の大切な財産を、未来の世代へしっかりとつなげるようにという目的で、平成 28 年（2016 年）3 月に、知床の保全や適正な利用を推進するための北海道知床世界自然遺産条例が可決されました。

この条例においては、知床世界自然遺産の保全等を推進するに当たり、「関係行政機関・団体と道民や来訪者、事業者との協働」や「世界自然遺産としての顕著な普遍的価値に対する道民等の理解の増進」が必要であると謳われ、また、「道は、そのために必要な措置を講ずるもの」と規定されています。

知床が世界遺産だと言うことはよく知られるようになりましたが、知床の何がすごいのかということはありません。そのため、知床について考えてもらうために「知床の日」をつくりました。

なぜ、1 月 30 日を「知床の日」にしたのかというと、知床は北半球において流氷が接岸する南限であり、また、流氷は多くの生態系に恵みをもたらします。知床が世界自然遺産になった平成 17 年（2005 年）に、知床で流氷が接岸した最初の日が 1 月 30 日でした。知床のすばらしい自然には流氷がとても大きな役割を果たしています。道では、知床の豊かな生態系を支える出発点として重要な意味を持つ「流氷」にちなみ、知床における流氷接岸初日を「知床の日」としました。

「世界自然遺産・知床の日」に協賛するイベントが地元の町や道庁赤レンガで開催されています。根室振興局では、1 月 30 日の「世界自然遺産・知床の日」について、道民に広く浸透させることを目的として、平成 31 年（2019 年）1 月 25 日から平成 31 年（2019 年）2 月 1 日までの間、振興局の道民ホールにおいて、パネル展を実施し、「世界自然遺産・知床の日」の啓発活動を行いました。

